

## 様式 A (介護現場と開発企業の意見交換実施事業等 依頼書)

令和 4 年 8 月 1 日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

(依頼者)

〒150-0011

住所 東京都渋谷区東 2 丁目 1 4-7

事業者名 株式会社 チカク

担当者所属 Biz チーム

担当者名 石井、伊藤、笠井

電話番号 03-6712-6886

電子メールアドレス biz@chikaku.co.jp

## 介護現場と開発企業の意見交換実施事業等 依頼書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式の一環として行う、介護ロボット等に係る「**介護現場と開発企業の意見交換実施事業**」又は「**試作介護機器へのアドバイス支援事業**」について、下記の書類を提出して依頼します。

## 記

1. 介護現場と開発企業の意見交換実施事業等 依頼概要書
2. 会社概要 (任意様式)
3. これまでの介護ロボット等に関わる開発実績がわかる書類 (任意様式)  
※) 実績がない場合は、提出不要

(本書類の取扱いと留意事項について)

- ご提出いただく「介護現場と開発企業の意見交換実施事業等 依頼概要書」は、介護施設等とマッチングする際、当協会のホームページを通じて、介護施設等へ公開いたします。従って、記載する内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切なお協力がいただける介護施設等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 当協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を承っております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご留意ください。

## 介護現場と開発企業の意見交換実施事業等 依頼概要書

## 1. 希望する事業の種類（いずれかに○印を記入してください。）

1. 介護現場と開発企業の意見交換実施事業	
2. 試作介護機器へのアドバイス支援事業	○

## 2. 依頼者（企業）の概要

企業名	株式会社 チカク	
担当者名	石井 笠井 伊藤	
担当者連絡先	住所	〒150-0011 東京都渋谷区東2丁目14-7
	電話	03-6712-6886
	電子メールアドレス	<a href="mailto:biz@chikaku.co.jp">biz@chikaku.co.jp</a>
主たる業種	インターネット附随サービス業	
主要な製品	テレビ電話	
希望する施設等の種類や職種等 希望施設に☑を入れてください 複数選択可	<input type="checkbox"/> 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 介護老人保健施設：老人保健施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護：グループホーム <input type="checkbox"/> 特定施設入居者生活介護：有料老人ホーム、軽費老人ホーム、養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、地域密着型特定施設入所者生活介護 <input checked="" type="checkbox"/> 居宅介護サービス：訪問介護、看護、デイサービス、リハ、福祉用具貸与サービス事業者、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護 等 <input type="checkbox"/> ショートステイ <input type="checkbox"/> 障害者福祉施設 <input type="checkbox"/> 医療機関：介護療養型、介護医療院、病院、リハビリテーションセンター 等 <input checked="" type="checkbox"/> その他：（地域密着型サービス：定期巡回随時対応型訪問介護看護）	
その他		

## 3. 当該機器の開発コンセプト又は試作介護機器等の概要（可能な限り詳しく記入してください。）

機器の名称（仮称）	テレビ電話	
試作介護機器の有無及び機器のコンセプト（試作介護機器あれば写真を添付）	試作介護機器の有無	① ○有 ・ 2. ×無
	スマートフォンとテレビで、テレビ電話ができるサービス。 ITが苦手な高齢者でも自宅のテレビで簡単に操作ができる設計が特徴。  具体的なサービスの特徴は、以下の3点 ・ ネット環境が不要。 ・ 専用機器とテレビをケーブルで繋ぐだけで設定が完了。 ・ 普段使っているテレビリモコンで操作が完結。使うボタンは決定ボタンのみ。※ ※テレビによっては使用するボタンは2つ。	

	<p>機器の写真</p> 
<p>想定する使用者及び使用方法、使用場面</p>	<p>①想定する使用者及び使用方法 在宅介護を利用中の高齢者宅へ、訪問介護・定期巡回事業者・高齢者のご家族等が架電する想定。※ ※ 1つのテレビに対して何人でも架電可能</p> <p>使用方法 事業者や家族が専用スマホアプリをインストールし、通話ボタンをタップするのみ。高齢者のテレビに着信音となり、テレビリモコンの決定ボタンを押すと通話が開始。</p> <p>②想定する使用場面 高齢者宅から呼び出し時に、訪問の必要性を事前に見極めたい場面。精神的不安の解消や見守りが必要な高齢者に、遠隔でコミュニケーションを取りたい場面。</p>
<p>現在の開発状況と主な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発状況 スマホから、テレビにテレビ電話ができる状況。</li> <li>・主な課題 サービスを試験運用できる機会が少ない。 介護現場での活用における課題の確認（追加機能の要望など）不足。</li> </ul>
<p>特にアドバイス（意見交換）を希望している事項</p>	<p>①活用シーンの提案 ②追加すべき機能 ③改良すべき点 ④訪問介護・定期巡回での活用の可能性、⑤価格設定・誰がコスト負担すべきか</p>
<p>その他</p>	

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。



近  
知覚く



## Vision

距離も時間も超えて**大切な人を**  
**近くする・知覚できる**世界を創る

サービス開発において、最も大切にしている事。チカクの強み。

# シニアファースト

- 100歳の方でも使えて、本当に喜ばれるプロダクトを -





# 会社概要



会社名	株式会社チカク	出資者	500 Startups Japan インキュベイトファンド 野村インキュベーション投資事業有限責任組合 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) GMO Venture Partners株式会社 SMBCベンチャーキャピタル株式会社 西武しんきんキャピタル株式会社 株式会社Impact Venture Capital
設立年月日	2014年3月12日		
従業員	25名		
資本金	1億円		



1<sup>st</sup> プロダクト

まごチャンネル

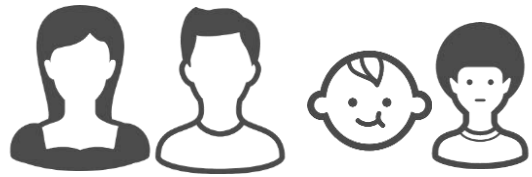


## まごチャンネル

家族皆から実家のテレビへ、  
子供の成長や、家族の日常動画を簡単に届けられる  
**家族を繋ぐサービス**です。



# まごチャンネルの仕組み



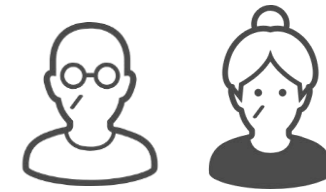
家族のスマホ（招待可能）



送る



見た  
お気に入り  
通知



実家のテレビ



## 100歳の利用者も。どんなシニア宅でも簡単に導入可能

100歳のひいおばあちゃん、まごチャンネルと出会う

<https://www.youtube.com/watch?v=cTX7DX9Gosw&t=0s>

宮城在住のご夫婦

<https://www.youtube.com/watch?v=PKJovoa0ogA>



100歳のひいおばあちゃん、まごチャンネルと出会う

# なぜシニアが誰でも使えるデバイスなのか

高齢者世帯  
Wi-fi 普及率

17%



## 1.通信内蔵

- スマホもネット回線も不要



## 2.簡単セットアップ

- ケーブルを挿すだけで設定終了



## 3.操作はリモコンで

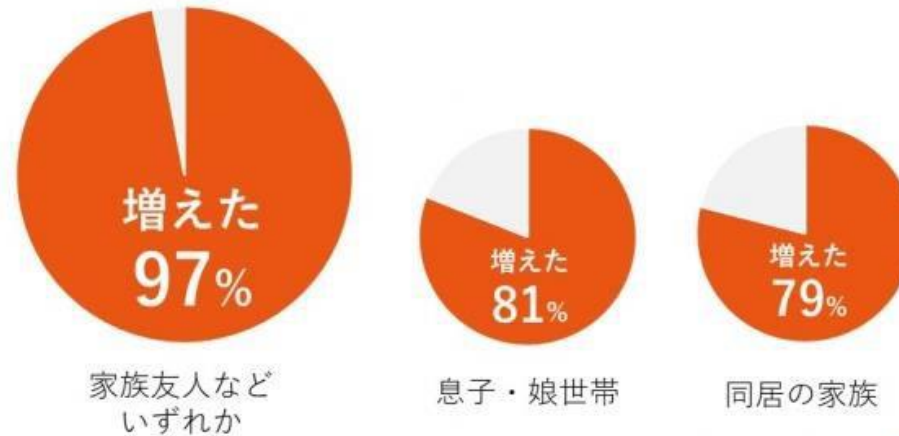
- 慣れ親しんだ普段のリモコンで操作


**本当に誰もが使える仕組みの実現**

## 弊社シニア対象のユーザー調査で「家族との会話が増えた」97%

テレビの大画面で孫や家族の写真や動画をみることで、より親近感が増加し、夫婦や親戚、友人と一緒にテレビに映し出される孫や家族の動画をみることで会話機会の増加へとつながっているようです。

Q. まごチャンネルを利用してから、会話する機会が増えた相手



※N=123：50-90代男女 

調査期間：2019年11月1日～11月13日  
調査対象：まごチャンネル利用者123名  
(50代～90代、男性：61名、女性：62名)  
調査方法：郵送調査

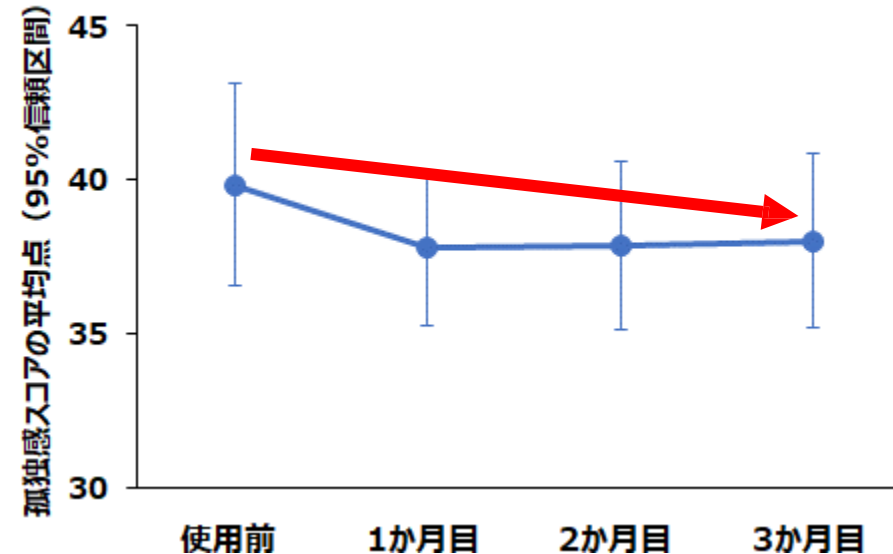


# 孤独感が減少傾向に（速報値）

## 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究所との共同研究

研究に参加した中高齢者のうち、抗精神病薬等の服用のない全54人（平均年齢75.3歳）の結果を中間解析。3ヶ月間の介入期間をととして、孤独感スコアが減少する傾向を確認。

まごチャンネル使用後の孤独感の推移



遠隔的な写真・動画共有デバイスの使用による別居家族との交流促進が中高齢者の心理・社会機能に及ぼす影響：前後比較試験によるfeasibility研究

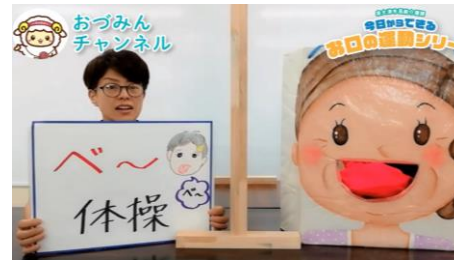
# 自治体との取り組み

動画や写真を高齢者宅のテレビに送信できる「まごチャンネル」を活用し、行政情報を伝達。  
コロナ禍で分断した自助だけでなく公助の補完にも寄与

## ①大阪府泉大津市（2020年7月～10月）

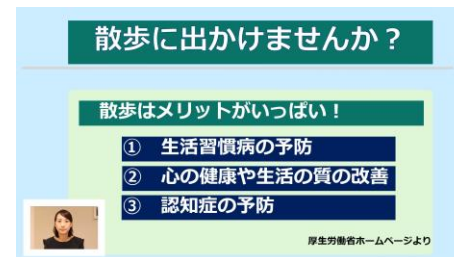
新しい生活様式下での運動、避難、防犯等を啓発する取り組み。

まごチャンネルから配信した行政情報の動画は視聴率100%の結果に。



## ②兵庫県たつの市（2021年8月～11月）

孤独・孤立対策として外出を促す取り組み



## 「高齢者でも使えるデジタルテクノロジー」として紹介多数

2020/11/21 産経新聞夕刊1面 (関西)



2020/4/28 テレビ朝日「スーパーJチャンネル」



2020/4/29 読売テレビ「ミヤネ屋」



2020/4/29 NHK「ニュースウオッチ9」



2020/5/4 TBS「あさチャン！」



2020/8/4 日経TRENDY



2019/12/23 AERA



2020/2/12 日本経済新聞 (小池東京都知事に表彰)



2021/2/5 NHK「おはよう日本」



## 昨年、9/8 日経朝刊で高齢者向けテクノロジーの代表例として大きく紹介

### 「エイジテック」新興勢がけん引

**AGE** スマホで相続手続き

**チカク** 健康維持助ける動画

高齢化社会の課題をクラウドなどデジタル技術で解決する「エイジテック」を手掛けるスタートアップが増えている。煩雑な不動産の相続手続きを簡単にしたり、親が認知症になる前に家族で財産を管理したりできるサービスなどが登場。高齢化は日本だけでなく世界で進行しており、投資マネーも流れ込んでいる。

#### クラウドで高齢者支援

「役所に行かなくても 手間がかかる。同社はこ ネットで簡単に相続の手 うした煩雑な作業を代行 続きができた」。神奈川県、一部は自動化する シー（東京・港）は家族 県に住む飯島尚美さん ステムを開発、利用者は 間で円滑に財産を信託で (50)は喜ぶ。4月に亡 くなった母親が所有する 必要な情報を入力するだけ 不動産の名義変更が4週 で相続手続きを完結でき 固で済んだ。利用したの る。

運動や外出促す 運動や外出促す 料金は1人あたり6万 9800円と司法書士な どが手掛ける代行サービ スの半以下に設定。サ 題の一つはお金だ。厚生 労働省の推計によると、 8000件の不動産の名 義変更を手掛けた。塩原 年に約80万人と20年 比3割増える。認知症に 優太代表は「今後は予防 り、郵送を請求したりと 金や相続税の分野を攻め

不動産の名義変更には 亡くなった人の戸籍謄本 や住民票などが必要。何 度も役所に足を運んだ 優太代表は「今後は予防 り、郵送を請求したりと 金や相続税の分野を攻め

老後の課題を解決する「エイジテック」が広がる


**お 金**

- AGE technologies (不動産の相続手続き) を簡単に
- トリニティ・テクノロジー (認知症に備えた財産管理)




**健 康**

- チカク (家族の様子や、心身の健康維持を促す動画を配信)
- トリプル・ダブルユー・ジャパン (排尿タイミングを予測)



**生 活**

- MIKAWAYA21 (困り事を依頼できる専用ボタン)
- Hubbit (遠隔操作機能付きタブレット)



金融資産が凍結されるた め、本人や家族の生活に 大きな影響を与える。

コロナ禍で外出が制限 され、孤独感や運動不足 から高齢者の健康に悪影 響を与える問題も指摘さ れている。家族間の写真 ・動画共有サービスのチ カク(東京・渋谷)は8 月半ば、セコムと共同で 高齢者の体力維持と孤独 解消に役立つシステムの 実証実験を兵庫県たつの 市で始めた。

同社はテレビにつなぐ だけで、家族などがスマ ホアプリから送った孫の 写真や動画が見られる機 器を手掛ける。実証実験 ではこの機器を経由し て、自宅での体操の機 動画や市内の文化施設の 催し物情報を配信。運動 や近隣の散策程度の外出 を促し、体力維持と孤独 解消につなげる。 エイジテックが目ざ

れる背景には高齢者にも スマホが普及し、デジタ ル化の恩恵を受けやすくなってきたことがある。 一方で、デジタル機器の 操作が苦手な高齢者は 多く、生活に不便を感 じる人も出ている。

19年創業のHubbit (ハビット、東京・品 川)はこのデジタルデバ イド(情報格差)の問題 に着目。遠隔操作機能が 付いたタブレットを広島 の老人ホームに配布し、 ネットでの買い物やオン ライン診療の受診などを 支える。MIKAWAYA 21(東京・荒川)は簡 単な操作により、音声で 薬を飲む時間や天気的情 報を読み上げてくれる機 器の販売に注力する。

エイジテック分野に関 心を示すベンチャーキャピタル(VC)は増えて いる。コラル・キャピ タルの吉沢美弥子氏は 「世界的に高齢化は進ん でおり、米国では介護分 野の人材マッチングや高 齢者向けフィンテックを 手掛ける新興企業が伸び ている」と話す。

課題もある。家族信託 など新しい仕組みは消費 者の認知度が低い。新し いサービスに身構える 傾向もあり、高齢者に関 心をもってもらいやすい サービスや商品開発が重 要だ。Zベンチャーキャピタルの岡本紫苑氏は 「高齢者と接点を持つ大 企業と連携するなどして 収益源を多様化する取り 組みが重要だ」と指摘す る。

(新興・中小企業エディター 鈴木健二朗、香月夏子)



2<sup>nd</sup> プロダクト

テレビ電話

高齢者でも簡単

# テレビ電話

機械が苦手なご高齢者にも

インターネット不要!!  
テレビリモコンで簡単操作!!



テレビと



スマホで



スマートフォンとテレビを繋げて、簡単に大画面のテレビ電話ができます。スマートフォンをお持ちではないご高齢の方でも簡単に使えます。テレビには何台のスマートフォンからでも電話をかけることができます。



NHKで高齢者向け注目の  
エイジテック製品として特集されました!



# テレビ電話の利用イメージ



- ◆ アプリのボタンを1回タップで電話ができる
- ◆ 誰でも使える簡単操作



- ◆ 設置はコードを挿すだけ
- ◆ ネット環境も不要



- ◆ 操作はリモコンでOK
- ◆ 使うボタンは「決定」と「入力切替」だけ

**在宅介護利用者や離れた場所で暮らす家族の見守り  
日々のコミュニケーションやに利用  
- 独居高齢者600万人超え -**

# ご家族に電話をかけるまでの流れ

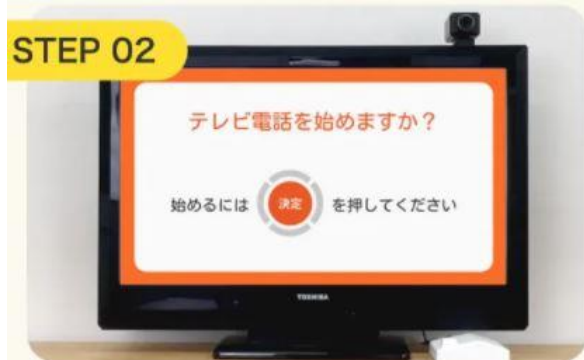
スマホの専用アプリから、1タップでかけられます。  
テレビ側は、画面を切り替え決定ボタンを押せば会話開始。何歳の方でも使える安心設計。



スマホで操作する方

## アプリから通話する

テレビ電話用アプリを起動し、テレビ電話機材を設置したまごチャンネルをタップするとテレビ電話をかけられます。



まごチャンネル  
本体をお持ちの方

## 実家のテレビに着信！

「テレビ電話を始めますか？」という画面が出るので、テレビのリモコンで決定ボタンを押し通話を開始します。



まごチャンネル本体をお持ちの方・スマホで操作する方両方

## テレビ電話開始！

ご実家側で、リモコンの決定ボタンを押すと映像も繋がり、テレビ電話ができます。



# 全国の介護施設で実証実験実施中

2022/5/11 秋田朝日放送



2022/5/25 西日本新聞（福岡）

## リモコンでテレビ電話

### 古賀市の高齢者施設で実験 操作楽に、孫と面会笑顔

北海道の次女や孫とテレビ通話を楽しむ入所者の佐藤義明さん

21日、古賀市

「決定」ボタンを押せばテレビ通話が始められる。

21日には佐藤義明さん(90)が挑戦。ボタンを押すと、北海道に住む次女と孫の顔が画面に大写しになり「おお、えらい久しぶりやね」と相好を崩した。やりとりはタイムラグもなくスムーズで、佐藤さんは「誰の手も借りずに使えるのがあるがたい」。孫の酒井萌子さん(23)も「3年半ぶりに元気な顔を見られた」と喜んでた。

今回、設置した機器の費用は1セット約3万円。今後は、複数の場所にいる家族が同時に入所者と面会できる機能の追加などの改良を目指し、実験を続ける。

ハイマート桑の実では、パソコンのオンライン会議システムによる面会を取り入れたものの、職員が手伝わなければ作動できなかった。富山雅子・施設管理者は「実験したテレビ通話は手軽に家族と触れ合えるので、入所者の気持ちを和らげる効果が大きい」と期待した。

(今井知可子)

使い慣れたテレビのリモコンを押すだけで、家族とリモートで面会できたら。福岡県古賀市の高齢者施設「ハイマート桑の実」で、こんな入所者の夢をかかなえる技術の実証実験が進んでいる。コロナ禍を機に各地の施設で「オンライン面会」の導入が進んだが、高齢者には操作が難しいこ

実験しているのは、東京のIT関連会社「チカク」。高齢化社会を背景に、エイジテック（お年寄りの困り事解消に特化した技術）を活用した商品やサービスに力を入れる企業が増加しており、チカクもその一つだ。高齢者施設でリモート面会を実施するのは全国で2カ所目という。

入所者が施設で日ごろ使うテレビにカメラなどの機材を接続。専用のアプリを入れたスマートフォンを持つ家族からの電話を受け

とが課題となっていた。実験は好調で、普及すればお年寄りの笑顔が増えそう

北海道の次女や孫とテレビ通話を楽しむ入所者の佐藤義明さん

21日、古賀市

「決定」ボタンを押せばテレビ通話が始められる。

21日には佐藤義明さん(90)が挑戦。ボタンを押すと、北海道に住む次女と孫の顔が画面に大写しになり「おお、えらい久しぶりやね」と相好を崩した。やりとりはタイムラグもなくスムーズで、佐藤さんは「誰の手も借りずに使えるのがあるがたい」。孫の酒井萌子さん(23)も「3年半ぶりに元気な顔を見られた」と喜んでた。

今回、設置した機器の費用は1セット約3万円。今後は、複数の場所にいる家族が同時に入所者と面会できる機能の追加などの改良を目指し、実験を続ける。

ハイマート桑の実では、パソコンのオンライン会議システムによる面会を取り入れたものの、職員が手伝わなければ作動できなかった。富山雅子・施設管理者は「実験したテレビ通話は手軽に家族と触れ合えるので、入所者の気持ちを和らげる効果が大きい」と期待した。

(今井知可子)